

## 過活動膀胱患者に対するボタンボウフウの臨床効果

【背景と目的】過活動膀胱の薬物治療の標準的選択には、抗コリン薬や $\beta 3$ 刺激薬が、広く用いられている。しかし薬物の副作用により内服継続が困難となるケースも存在し、また保険治療の制約により、十分な量の処方さまならない場合もあり、このようなケースには補完的に、漢方薬などが追加されることがある。ボタンボウフウは、沖縄などにおいて「長命草」と呼ばれ、動脈硬化に対する予防などに効果を有する機能性食品として注目されてきた。また、屋久島原産のボタンボウフウに含有されるクマリン化合物のイソサミジン(3'-Acetoxy-4'-seneciolyloxy-3',4'-dihydroseselin)は、摘出臓器を用いた *in vitro* 実験において、膀胱および前立腺の平滑筋弛緩作用を示すことが判明した。このことからボタンボウフウエキスは、過活動膀胱症状の改善効果も期待されている。

【方法】過活動膀胱と診断した45歳から83歳までの女性10名に、ボタンボウフウエキス35mg/日を4週間摂取させた(静岡県立大学倫理委員会にて承認)。前後で排尿パラメーターを検討した。またストレスマーカーとして尿中8-OHdG濃度を測定した。

【結果】OABSSは約8.5点から6.5点まで有意に減少し、10人中8名で自覚的な満足感が得られた。一回排尿量は増加したが、残尿量は減少した。尿中8-OHdG/Ucrが減少傾向を示し、8名の患者さんが「楽になった」という感想が、過活動膀胱のストレスの改善による影響とも考えられた。

【考察と今後の展望】抗コリン薬や $\beta 3$ 刺激薬などの服用に支障があったり、十分な効果の得られていない過活動膀胱患者には、ボタンボウフウエキスが有力な治療選択枝になりうると考えられる。前立腺肥大症を合併する過活動膀胱症例に対しては、以前から注目されているノギリヤシとボタンボウフウの合剤を用いた臨床試験を現在計画中である。